令和６年度　中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ

（様式１－１）　**令和６年度　中堅栄養教諭評価票（自己評価用）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | | 職　名 | 栄養教諭 | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 校務分掌等 | |  | | | | |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅栄養教諭として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅栄養教諭として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅栄養教諭として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅栄養教諭として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内で  の意識が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の  教育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかかわりができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子供や保護者、同僚及び地域の人々と  　の信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自  らの専門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図  ることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を  収集したり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合  う教員集団づくりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づ  くりに積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくるこ  とができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に  応じた適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 食に関する指導 | 専門的知識や技能をより一層高め、食に関する指導について評価し、改善を図ることができる。  給食管理の評価と改善ができる。 |  |
| (例)・学校教育活動全体を通じた学校における食育推進の中核的な役割を果たすと  ともに、適切に評価・改善することができる。  ・食事摂取基準の考え方に基づいた栄養管理を行うとともに、定期的に評価改  善を行うことができる。衛生管理上の課題の改善することができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題  解決能力を高めるための支援をすることができる。 |

-10-

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色ある学校づくりに参画することができる。  ・組織の一員として、学校の課題解決に向けて、栄養教諭としての専門性を  発揮することができる。 | | |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員として、その関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となって関わるとともに、後輩教員に的確  な助言や支援をすることができる。 | | |
| 危機管理 | 食に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | |  |
| (例)・学校保健や学校安全の視点から教育活動に配慮した環境づくりに努めるとともに、リスクの早期発見、早期対応に向け、適切な対応策及び未然防止策を講じることができる。  ・学校給食におけるリスク要因を分析し、緊急時マニュアル等の改善がで  き、全教職員に共通理解を図り、組織的に事故防止対策に取り組むことが  できる。 | | |
| 特別な配慮や  支援を必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校給食調理従事者等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子  どもの特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関す  る情報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者、学校給食調理従事者や関係機関等と連携の強化に努め、  個々の課題を解決するために指導や支援の組織的な対応を提案することが  できる。 | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した食に関する指導等を行い、給食管理等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用して、食に関する指導等の授業を行ったり、一人一人の児童生徒の状況を多面的に確認し、生活改善等の支援について栄養教諭の立場から積極的に提案したりすることできる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、  校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 | | |
| 研修に向けての課題等 |  | | | | |
|  | | | 評価年月日 | 令和　　年　　月　　日 | |

-11-

令和６年度　中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ

（様式１－２）　**令和６年度　中堅栄養教諭評価票(案)（校長評価用）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | | 職　名 | 栄養教諭 | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 校務分掌等 | |  | | | | |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅栄養教諭として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅栄養教諭として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅栄養教諭として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅栄養教諭として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内での意識が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教  育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかかわりができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子供や保護者、同僚及び地域の人々との信  頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図ることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を収  集したり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合う教  員集団づくりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応  じた適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 食に関する指導 | 専門的知識や技能をより一層高め、食に関する指導について評価し、改善を図ることができる。  給食管理の評価と改善ができる。 |  |
| (例)・学校教育活動全体を通じた学校における食育推進の中核的な役割を果たすとともに、適切に評価・改善することができる。  ・食事摂取基準の考え方に基づいた栄養管理を行うとともに、定期的に評価改善  を行うことができる。衛生管理上の課題の改善することができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題解決  能力を高めるための支援をすることができる。 |

-12-

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色ある学校づくりに参画することができる。  ・組織の一員として、学校の課題解決に向けて、栄養教諭としての専門性を発揮  することができる。 | | | | | |
| 参画 ・ 運営 | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員として、その関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となって関わるとともに、後輩教員に的確な助  言や支援をすることができる。 | | | | | |
| 危機管理 | | 食に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |  |
| (例)・学校保健や学校安全の視点から教育活動に配慮した環境づくりに努めるととも  に、リスクの早期発見、早期対応に向け、適切な対応策及び未然防止策を講じ  ることができる。  ・学校給食におけるリスク要因を分析し、緊急時マニュアル等の改善ができ、全  教職員に共通理解を図り、組織的に事故防止対策に取り組むことができる。 | | | | | |
| 特別な配慮や  支援を必要とする子どもへの対応 | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校給食調理従事者等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子ど  もの特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関する情  報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者、学校給食調理従事者や関係機関等と連携の強化に努め、  個々の課題を解決するために指導や支援の組織的な対応を提案することができ  る。 | | | | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | | ICTを効果的に活用した食に関する指導等を行い、給食管理等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用して、食に関する指導等の授業を行ったり、一人一人の児童生徒の状況を多面的に確認し、生活改善等の支援について栄養教諭の立場から積極的に提案したりすることできる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、  校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | |
| 評価  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 評価者 | 職名 | 校長 | 氏名 |  | |

受講者名

-13-

（様式２）　　**令和６年度　中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ実施計画書(案)**

校名（　　　 　　　　　　　学校）　　　　　受講者名（　　　　　　　 　　　 　　）

　　　　　　　　　　　　　 　　 　校長名（　 　　　　　　　　　　　 ）

-14-

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | |  | | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | | 校内等における研修 | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  | |  |  |
| ５ |  | |  |  |
| ６ |  | |  |  |
| ７ |  | |  |  |
| ８ |  | |  |  |
| ９ |  | |  |  |
| 10 |  | |  |  |
| 11 |  | |  |  |
| 12 |  | |  |  |
| １ |  | |  |  |
| ２ |  | | 実施計画書（案）の作成に当たって  　実施計画書（案）の作成時に、香川県教育センター　オンライン研修サイトにアクセスし、「中堅教諭等、養護教諭、栄養教諭資質向上研修Ⅱオリエンテーション」の動画を視聴してください。  　〇　動画は令和６年４月１日（月）より視聴可能です。  　〇　オンライン研修サイトのログインには、閲覧ＩＤとパスワードが必要です。  　　・令和６年４月１日（月）～４月下旬まで  令和5年度用の閲覧ＩＤとパスワードを使用  　　・４月下旬以降  令和６年度用の閲覧ＩＤとパスワードを使用  　　　令和６年度の閲覧ＩＤとパスワードの設定、及び閲覧ＩＤ等が変更される日時については、４月上旬に香川県教育センターから各学校に送付される文書を参照してください。 |  |
| ３ |  | |  |  |

(様式２）記入例 **令和６年度 中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ実施計画書(案)**

実施計画書案が決定したら、案を取り、実施計画書として提出する。

校名（　　　 　　　　　　　学校） 　　　 受講者名（　　〇〇　〇〇　　 　　）

評価票案等に基づき、中堅栄養教諭の意見や希望を参考にしながら決定する。

　　　　　　　　　　　　　 　　 　 校長名（　　〇〇　〇〇　　　　 ）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | | 食に関する指導の充実について  　　　―　食生活学習教材を活用した授業実践を中心にして　― | | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | | 校内等における研修 | 事前課題・提出物等 |
| ４ | 「Ⅲ １ 県教育センター等における研修」を基に作成する。(４日) | | 「Ⅲ ２ 校内等における研修」を基に作成する。（３日程度） | ○自己評価票、実施計画書案作成・提出（校内） |
| ５ | 〇オンライン研修「オリエンテーション」受講 | |  | ○評価票案、実施計画書案提出（９日）  ○実施計画の決定  ○実施計画書提出（16日） |
| ６ | ○県教育センター主催研修  （11日） | |  |  |
| ７ | ○県教育センター主催研修  （23日）  ○県教育センター主催研修  （29日） | | ○校内実践授業に向けた教材研究、学習指導案の作成 | ○「教科等における食に関する指導」資料準備  （７月23日集合研修に向けて）  ○「給食管理と食に関する指導の取組と課題」資料準備  （７月29日集合研修に向けて） |
| ８ |  | | ○食に関する実態調査の実施と結果のまとめ |  |
| ９ |  | |  |  |
| 10 |  | | ○校内実践授業、授業後の指導 |  |
| 11 |  | |  |  |
| 12 | ○県教育センター主催研修  （25日） | |  | ○「カリキュラム・マネジメント」資料準備  （12月25日集合研修に向けて） |
| １ |  | |  | ○研修受講記録提出（校内） |
| ２ |  | | ○１年間の研修のまとめ | ○実施報告書作成・提出（校内）  ○実施報告書提出(28日) |
| ３ |  | |  |  |

-15-

(様式例３－１) **中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ　県教育センター等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）　　受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

※学校独自の様式も可

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研修日時 | | 月 　日(　　)曜日　：　～　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |
| 研修日時 | | 月 　日(　　)曜日　：　～　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |

-16-

(様式例３－２)　**中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ　校内等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）　　受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修日時 | 研修内容 | 研修成果及び感想 |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |

※学校独自の様式も可

（様式４－１）**令和６年度　中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ実施報告書（本人用）**

-17-

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | 職名 | 栄養教諭 | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  | |
| 受講者名 |  | |
|  | | | | | | | | |
| 観　点 | | 育成指標 | | | | | | 報告及び自己評価 |
| **A**  **素**養・資質 | **使命感・責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | |  |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | |  |
| **食に関する指導** | 専門的知識や技能をより一層高め、食に関する指導について評価し、改善を図ることができる。  給食管理の評価と改善ができる。 | | | | | |
| **生徒指導** | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| **参画・運営** | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |
| **危機管理** | 食に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校給食調理従事者等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | ICTを効果的に活用した食に関する指導等を行い、給食管理等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| 成果と課題 |  | | | | | | | |
|  | | | | | 報告年月日 | | | 令和　　年　　月　　日 |

（様式４－２）**令和６年度　中堅栄養教諭資質向上研修Ⅱ実施報告書（校長用）**

-18-

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | | | 職名 | | 栄養教諭 | | | ﾌﾘｶﾞﾅ | |  |
| 受講者名 | |  |
|  | | | | | | | | | | | | |
| 観　点 | | | 育　成　指　標 | | | | | | | | | |
| A  素養・資質 | **使命感・責任感** | | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | | | | | |
| **コミュニケーション** | | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| **自己研鑽** | | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | | | | | |
| **食に関する指導** | | 専門的知識や技能をより一層高め、食に関する指導について評価し、改善を図ることができる。  給食管理の評価と改善ができる。 | | | | | | | | | |
| **生徒指導** | | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | | | | | |
| **参画・運営** | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | | | | | |
| **危機管理** | | 食に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校給食調理従事者等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | | | | | |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | | ICTを効果的に活用した食に関する指導等を行い、給食管理等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | | | | |
| 報告  年月日 | | 令和　 年 　月　 日 | | 報告者 | | 職名 | | 校長 | 氏名 | |  | |

-19-